

Kakehashi いさはや

2022

Vol.5

令和4年3月発行

地域で暮らすための
3つの「つながる」



利用者の思いと

3つの「つながる」をひとつに

ケアマネジャー

介護支援専門員（以下、ケアマネジャー）は医療関係者や介護サービス事業者との調整を密に行い、ケアプランを作成して高齢者の生活をサポートします。

そのため、ケアマネジャーにとって「医療とつながる」「多職種とつながる」「地域住民とつながる」、この3つのつながりは必要不可欠ではないでしょうか。

利用者の住み慣れた所で自分らしく生活したいという思いを受け、この3つの「つながる」をひとつに、多職種がチームを作り、充実した支援、喜んでもらえる支援に取り組まれています。

今号は3人のケアマネジャーにそれぞれ「つながる」場で何をされているか、エピソードなどを交えてお話を伺いました。

01

医療と つながる



ケアプランセンター平和
主任介護支援専門員
橋口 英俊さん

先生に怒られたことも
ありました（笑）

令和3年度の介護報酬改定で、医療機関との情報連携強化のため「通院時医療情報連携加算」が新設されました。「これまでよりも医療機関・医師との連携をしっかりとりなさい」ということだと思います。医療、特に主治医とつながるためには、失敗を経験しながら学んできましたが、日頃のからの情報提供、情報共有が必要だと思います。

例えば利用者の様子、事業所からの報告や自分が訪問時に気になった事など主治医に報告・相談することです。そして、いただいたアドバイスを実行し、その結果もきちんと報告します。報告・相談するタイミングが難しいなど課題はあるかと思いますが、敢えて訪問診療の時間に自分も訪問するとか、利用者の受診時に同席する方法もあります。直接じゃなくても、連携室や外来看護師を通して、きちんと伝えることが大事だと思います。

利用者の変化に気づくためには、どのような点を観察すべきか、日常生活でどんなことに注意すればいいかなど、主治医に確認しておくことも必要でしょう。

ケアマネジャーは生活環境、介護力、経済的なことなどを情報として持っています。その中から、主治医がどういう情報を必要とされているのか、いつも考えています。主治医が診察時間内では把握することが難しい、「**生活の視点**」を**しっかりお伝え**することができるのがケアマネジャーです。

医師と話をするのが苦手というケアマネジャーは多いと聞きます。苦手なままではなく、自ら工夫して情報を伝えることを繰り返していくと、その垣根が少しずつ低くなっていくのではないのでしょうか。

「医療」と「介護」、それぞれの役割を理解して、治療は先生にお任せし、生活を支援するプランニングはケアマネジャーに任せてください！と自信を持って、相互のつながりを深めていきたいと思います。



多職種とつながる



諫早医師会
居宅介護支援事業所「たんぽぽ」
主任介護支援専門員
今村 なるみさん

初心を忘れない！

ケアマネジャーには、介護サービス事業所など、一人の利用者を支援するチーム作りという大きな役割があります。

一人ひとりに適切なプランを作成するためにも、多職種との情報共有は非常に重要です。

それぞれの事業所に電話等で利用者の様子を伺ったり、課題の多い方の場合は特に時間をかけて、密な連絡を取り、事前にサービス担当者会議の打ち合わせを行うようにしています。

サービス担当者会議では、プランの確認だけではなく、各自が感じている悩みや問題点を顔を合わせて話をする事ができる場ですので、皆さん全員にお話ししてもらえよう話しやすい雰囲気づくり、思いを共有できるような場になるよう心掛けています。

そういう積み重ねで、互いに連絡を取りやすい、話しやすい関係が築いていけると思います。そして何よりも、私たちケアマネジャーが「このチームでいい支援をしたい！」という意識を持って多職種とつながることが、利用者のより良い生活へつながっていくと思います。

新しい事業所には訪問してつながりを広げ、またこれまでの多職種とのつながりも大事に継続させて、利用者の支援へとつなげていきたいです。



自宅での生活を支えていくということは、社会生活でできなくなったこと、難しくなったことをどう補っていくかだと思います。

地域には多様な社会資源が存在しており、そのすべてを個々のケアマネジャーが把握することは難しいです。包括はケアマネジャーをサポートする役割がありますので、社会資源や地域の支え合い活動など把握できない部分を情報提供しています。

ケアマネジャーの相談からも高齢者の課題や困りごとが見えてくるので、それを「語らん場」でお伝えし、地域の皆さんに自ら考えてもらう。そして、地域から生まれた支え合い活動などが、またケアマネジャー

の活動の一助となり、利用者に還元されるので、包括が受け持つ地域とのつながりは非常に重要です。

これまでの経験から感じたことですが、よく市民の皆様から問い合わせがあります。「〇〇さん、介護サービスを利用しているみたいだけど、最近どうしてる？」と。

最近、人に迷惑をかけたくないからと、自ら人との関わりを避けてしまう高齢者が多い気がします。もちろん、ご本人の意向を尊重することは大切です。しかし、何かできることはないかと心配して、包括に連絡をくださる近隣の方がいる、支え合おうとする地域があります。動けなくても、何かしらの形で住み慣れた地域とのつながりを持つということ、伝えていく必要があると思っています。そのためにも、私たちがしっかり地域とつながることが必要だと感じています。

「地域とのつながりは自宅で生活することの強み」だと思いますので、これからも、強みを活かしたマネジメントを支援していきたいです。

地域住民とつながる



諫早市北部地域包括支援センター
社会福祉士／主任介護支援専門員

古賀 瑞絵さん

地域の目・地域の力が
なぜ必要か？

在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

R3.12.2

誰でもわかる『口』の世界 ～今日からあなたも『口』博士～

かわい歯科クリニック院長・河井洋祐先生を講師にお迎えし、研修会を開催しました。オンライン研修で約80名の参加があり、口腔と全身疾患との関連や、歯科に関する興味深いデータもあり、新たな学びも多い研修でした。



R4.2.28

アルコール関連問題と高齢者の対応について

あきやま病院・福田貴博先生を講師にお迎えし、諫早市在宅ケアサークルと共催で、研修会を開催しました。約80名の方が参加されましたが、アルコール関連問題で悩んでいる専門職は多く、肯定的なコミュニケーションスキル、利用者・家族へのアプローチ方法など参考になることばかりでした。



R4.3.16

在宅での看取りケアに関する 多職種連携について

吉田内科クリニック院長・吉田知之先生を講師にお迎えし、研修会を開催しました。オンライン・会場合わせて約130名と多くの方が参加され、看取りや多職種連携への関心の高さがうかがえました。看取りケアも含め、在宅医療での多職種連携がスムーズに行われること、ワンチームとなることが、成功へのポイントであることを再認識することができました。



Information

令和4年度研修会・講演会開催予定

在宅医療・介護関係者研修会

9月 薬剤師会
11月 歯科医師会
R5.3月 医師会

19時～20時
オンライン研修
(または
ハイブリッド研修)

令和4年度も三師会にご協力いただき、研修会を開催する予定です。

また、ACPやハラスメントに関する研修会の第2弾も諫早市在宅ケアサークルとの共催で開催を予定しています。令和4年度も多くの方の参加をお待ちしております。

「在宅医療と介護」の市民講演会

在宅医療ってなあに？ ～あなたを支える医療と介護～

- 7月予定 長田地区【長田みのり会館】
講師：檀野 雄一先生（檀野医院）
原 美和子先生（ヒカリデンタルクリニック）
高崎 正磁先生（むつごろう薬局）
- R5.1月予定 飯盛地区



諫早市在宅医療・介護連携支援センター **かけはしいさはや**

〒854-0061 諫早市宇都町29-1 健康福祉センター内
TEL: 46-3166 FAX: 46-3167
E-mail: isahaya.zaitaku.renkei@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <https://kakehashi-isahaya.com/>

